

### 低炭素社会を目指す 蛍光管のリサイクル



職場や家庭の蛍光管をリサイクルしましょう

#### ■ 蛍光管のリサイクルの環を みんなで広げましょう

御船町甲佐町衛生施設組合「御船甲佐クリーンセンター」では、低炭素社会を目指して、蛍光管リサイクルの普及啓発に取り組んでいます。使用済みになった蛍光管は、割らずに集めれば、資源として有効に活用できるとともに、低炭素社会の構築（地球温暖化の防止）にも貢献することができます。

#### ■ 約793<sup>キ</sup>の二酸化炭素を 1年間のリサイクルで削減

平成22年度に当センターで回収・リサイクルした蛍光管の量は、4<sup>キ</sup>130<sup>キ</sup>でした。これによって低減できた二酸化炭素の量は、約793<sup>キ</sup>で、杉の木が1年間に吸収する二

酸化炭素の量に換算すると、約56本分に相当します。

#### ■ 集めた蛍光管はどのように 処理しているの？

当センターで回収した蛍光管は、次のような処理を行っています。

① 資源を有効利用するために、北九州エコタウンにある専門の蛍光管処理工場でリサイクルしています。工場では、ガラスや金属類などを、可能な限り、元の原材料に再資源化しています。

② 回収した蛍光管は、日本で初めて、再生原料を使用した蛍光管として生まれ変わっています。

再資源化されたガラス・蛍光体などの一部は、再び蛍光管用として使われます。

③ 蛍光管リサイクルは、再生原料の活用により、低炭素社会の構築（地球温暖化の防止）に貢献しています。

再生原料の活用により、従来の埋め立て処理に比べて、二酸化炭素の排出量を低減することができます。

#### ● お問い合わせ先

御船町甲佐町衛生施設組合「御船甲佐クリーンセンター」

☎096・282・0688

町環境衛生課 ☎096-234-1111(内線242) ✉klg210@town.kosa.lg.jp

### ■ 退職者医療制度とは？

長い間、会社や役所などに勤めて退職し、老齢または退職を事由とする厚生年金などを受給できる65歳未満の人とその被扶養者は、国民健康保険の「退職者医療制度」で医療を受けることとなります。

この制度の対象者の医療費は、一部負担金（自己負担分）と国民健康保険税のほか、社会保険や共済組合からの拠出金が財源となっています。対象者が届け出をしないと、本来拠出金として負担すべき医療費まで町の国保が負担することになります。

対象者となったら、必ず届け出をしてください。

なお、国保税の算定方法および医療機関にかかったときの自己負担割合などについては、一般の国保と同

様です。

#### ● 対象となる人は？

次の条件にすべて当てはまる人（退職被保険者本人）と、その被扶養者です。

- ① 国保に加入している65歳未満の人
- ② 厚生年金や各種共済組合などの年金を受給している人で、その加入期間が20年以上、もしくは40歳以降10年以上ある人

#### ● 被扶養者とは？

次の条件にすべて当てはまり、退職被保険者本人と同一世帯に属している人です。

- ① 国保に加入している65歳未満の人
- ② 退職被保険者の直系尊属、配偶者（内縁でもよい）と3親等以内の親族、または配偶者の父母と子
- ③ 主に退職被保険者の収入によって生計を維持されており、年間の収入が130万（60歳以上の人や障がい者は180万円）未満の人

#### ● 手続きに必要なものは？

町住民生活課で手続きを受け付けます。次のものをご準備ください。

- ・ 国民健康保険被保険者証
- ・ 厚生年金などの年金証書
- ・ 印かん

### ？ かどうか 知者医療制 存退 職者 退



町住民生活課窓口で手続きを受け付けます

町住民生活課 ☎096-234-1111(内線106) ✉klg205@town.kosa.lg.jp

## 史跡「陣ノ内館跡」 発掘調査レポート#14



陣ノ内館跡から出土した土器から当時の様子を推測

### ■発掘した土器から想像が 広がる館跡の風景と暮らし

発掘調査では、「なんでこんな場所で、このような物が発掘されるのか？」と思うような土器がたくさん出土します。今月号で紹介する土器は、そのような物の一つです。

皆さん、写真の土器は、いったい何に使う道具か分かりますか？土の固まりを長さ4寸、幅0・5寸程度に細長く丸めただけで、甕（かめ）や壺（つぼ）などと比べるとずいぶん粗雑な作りですが、しっかりと焼き上げられています。左側の写真は、横から撮影したものです。中心は空洞で、何かを中に通して使ったのだらうと想像できます。ここで、魚取りをする人は、何に使った道具かすぐに気付くかもしれません。

正解は、魚取りに使う網に付ける重りで、土で作られている土錘（どすい）と呼ばれます。現在の重りは鉛や金属のものに変わっていますが、昔は土を丸めて焼き上げたものを網の重りとして使っていました。この土錘は、陣ノ内館跡の中心部の畑で出土しました。「緑川から遠く離れた台地の上で、魚取りの道具が出土するのは不思議だ」と思う人もいるかもしれませんが、紛れもなく、これは昔の人が使ったそのまま放棄されたものです。

皆さんもご存知のとおり、今の緑川の流れば、加藤清正によつて掘り変えられたといわれます。それより前は、館跡のある台地のちょうど真横を通り、甲佐の東側の山伝いに流れていたようです。従つて、館跡で土錘が出てきたという事実も、真下の緑川で魚を網で取りながら、台地の上で生活していたことを考えれば説明がつきます。

今、私たちが見ている風景は、自然や人の手によつて作り変えられた最終的な形です。それまでには、火山の噴火や大雨など自然の猛威により地形は変化し、今では想像ができません。昔の事を考える場合、まず先入観を捨てる必要があります。

町教育委員会社会教育課 ☎096-234-1111(内線324) ✉klg110@town.kosa.lg.jp

### ■まちづくりと男女共同参画

本町では、平成19年度に、住民、地域、企業、行政などが協力し、それぞれの得意分野や活動を生かして、知恵や汗を出し合い、「住民の力・地域の力・共に助け合う」という精神が息づく社会をつくるため、「町協働のまちづくり推進計画」を策定しました。

この計画は、私たちの周りであるさまざまな課題に対して、自分でできることは自分で、個人でできないことは地域で、地域でできないことは行政が行うという連携を図りながら問題を解決していこうというものです。推進するにあつた課題は、地域の連携・きずなではないかと思えます。東日本大震災のような災害時においても、多くの住民の命を救

## 協働のまちづくりと 男女共同参画社会



地域社会で男女共同で助け合い取り組む防災活動

い地域復興の力となるのは、地域で共に生活する住民であり地域力です。このようなことから、地域における住民の皆さんの結び付きの強化を図るため、さまざまな課題の解決を図りながら地域の連携を高めることが重要であると考え、「地域力の向上」を重点目標として掲げています。昔の地域社会では、婦人会、老人会、子ども会、消防団など小集落の中で共に見守り合い、助け合う組織力と、その中で男女の役割分担が確立した地域社会で成り立っていたように思います。しかし、近年の地域社会では、急速な少子高齢社会の到来とともに、人々のライフスタイルや価値観、ニーズは多種多様に変わっています。このような地域社会や生活環境の変化に伴い、職場、地域、家庭などあらゆる分野において、従来のような男だから女だからと区別したり、役割を分担した考え方や慣行の見直しが必要になってくると思われまます。

社会生活において、男女がともに理解し互いに協力することで、仕事、家庭生活、地域活動における男女共同参画社会が実現できるものと考えます。このことが、協働のまちづくりにおける「地域力の向上」につながることを期待します。

町住民生活課 ☎096-234-1111(内線102) ✉klg106@town.kosa.lg.jp